【青森県立青森高等学校　進路通信】

白堊はくあ　第９号　令和２年１２月２４日発行

【第２回最難関大志望者合同進学合宿】

県主催の事業で、最難関大学を志望する本校・弘前高校・八戸高校・八戸北高校の生徒を対象として、12 月 19 日(土)・20 日(日)に実施しました。

《目的》

青森県内の最難関大学を志望する生徒が一堂に会し、高い志を持つ生徒同士が切磋琢磨しながら学びを深め、個々の思考力を伸ばすとともに、進路志望の達成に向けて高い目標と具体的な目的意識を持ち、主体的に学んでいく意欲を高める。

《重点目標》

1　最難関大入試レベルの問題に取り組み、解説講義を聴くことで、求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力の水準を知る。

2　他校生と少人数で協働的に学ぶことで、学びの深め方・広げ方を知る。

3　地方から東大を目指し合格を手にした学生講師との交流を通して、学びの深め方・広げ方・覚悟を持った学びを実感し、東大合格へのモチベーションを高める。

4　ここで得た学びの方法を指針とし、今後の学習に生かす主体的な態度を身につける。

《日程》

令和2年度　第2回難関大学志望者合同進学合宿　日程　　別紙1

第１日　12月19日（土）				
			文・理共通日程	
	9:00	15分	開講式（オンライン）	
1	9:15 11:15	120分	数　学（東大模試演習）	
			休憩15分	
	11:30 12:30	60分	講　演（オンライン）　Benesse鉄緑会個別学力センター講師陣 「最難関大学の魅力とその合格に向けて」	
2	12:30 13:15	45分	昼　休　み	
3	13:15 15:15	120分	英　語（東大模試演習）	
			休憩10分	
	15:25	5分	諸連絡・解散[各校ごとに]	
第２日　12月20日（日）				
			文型(2年1組 教室)	理型(2年3組 教室)
	9:15		受付開始	
	9:45		諸連絡　[図書学習センター]	
	10:00		開講セレモニー・日程説明・グループ分け発表	
			移　動[各教室へ]	
1	10:10 11:40	90分	【講義】英語の解説	【講義】数学の解説
	11:40 12:30	50分	昼　休　み	
2	12:30 14:00	90分	【講義】数学の解説	【講義】英語の解説
			休憩・グループ会場へ移動15分	
3	14:15 16:15	120分	【分科会】少人数グループで数学問題にチャレンジ	
			移動[全体会場へ]	
	16:25 16:40	15分	アンケート記入 閉講式・解散	

《１日目の様子》　会場・・・各高校

・開講式（オンライン）

・講演（オンライン）

Benesse 鉄緑会個別学力センター講師陣

「最難関大学の魅力とその合格に向けて」

《２日目の様子》　会場・・・青森高校

・開催セレモニー

・講義（英語　理型）

（英語　文型）

・講義（数学　理型）

（数学　文型）

・分科会（少人数グループで数学の問題にチャレンジ）

《本校生徒の振り返りシート抜粋》

①自分の学力の現状【課題発見力】

数学、英語ともに、基礎力はだいぶ定着していると感じた。しかし、応用問題の演習量が不足しているため、基礎を応用の中でどう活用するのかがまだ理解できていなかった。また、解法パターンや英文のストックなどの知識が不足しているがゆえに、問題に即時に対応することができず、全体的に解くスピードがおそいと感じた。さらに、普段の自宅学習の計画の無さを強く実感した。

②上記の現状を踏まえた、学力向上のための計画

【原因分析力、課題解決力】

・数学：効率的に答えにたどり着くためにはどんな式や関数が必要なのかを逆算し、適切な文字を置くようこどを意識する。今回の一橋大学の問題のような条件の少ない問題を演習していきたい。また、確率や整数の問題には特に強く取り組み、数をこなすようにしたい。発想力に関しては、今回の問題解説をよく読み、発想のヒントを得て、様々な問題に挑戦したい。

・英語：まず第一に語彙力をつける。英語の文章を読む際に、知らない単語を書き出すことを始めたので、それも続ける。また、同じ教材（または、それと似た教材）を使用して長文読解の練習やリスニングの練習、果ては要約の練習もしたいと思う。それに、演習の際にもらったプリントもあるので、それも有効に活用する。

③今回の「合宿」を通して考えたこと

【受信力・発信力、行動力、自己実現力】

これまでの自分は「部活があるから」といってそれを言い訳に勉強から少し逃げていたところがある。しかし、初日の講演会で足立さんや渡辺さんの卒業生の話を聞いて、部活は全く言い訳にならないのだなと改めて痛感した。また、講演会に来て下さった方々は全員理系出身で、聞きたいと思っていた日本史世界史についての質問ができなかったのが少し心残りだが、今回の合宿で様々な先生方が「3年生になったらメインは勉強」とおっしゃっていた通り、理科に時間をとられてしまう前の今の時期に数学と英語を固めておく必要があり、そういう意味を含めての「3年生の学期」なのだな、と、この講の重さを改めて感じた。学習面では自分の実力不足でやる気をなくしてしまう場面もあったが、精神面や受験への心構えは良い方向に変じたと思う。あとは自分の実力をひたすら高めていくのみ。

今回「合宿」に参加して、改めて自分のレベルと意識の低さを感じた。皆少しでも暇があれば教室で読み、数学の解説をしあっていて、最難関大学を志す熱意を直に感じた。質問に応じてくださった鉄緑会の3人の先生方も、2年生のうちに基礎を完璧にすることが最優先だとおっしゃっていたので、この冬休みに国語英語を中心に演習量を増やしたい。また、2日目の講習でさまざまな勉強法を学んだので、それらも冬休み中に継続していきたい。

【身につけて欲しい習慣 part②】

⑤ 最善策・次善策・譲歩策の３つを考えよう。

最善策（自分の中で最も良い策・案・予定）、次善策（最善策が成り立たない場合に、自分の中で２番目に良いと思う策・案・予定）、譲歩策（考え得る中で、自分の中で譲歩できる策・案・予定）の３つを考えよう。世の中すべてが自分の望み通り（最善策）になることはあり得ません。そのときの状況や情勢によっては譲歩策になることも多々あります。大切なのは譲歩策をとった後にどのような行動・改善策をとるかです。人生とは、自分にとっての最適解を探ることの連続です。３つの策を考える習慣を身につけていきましょう。

⑥ 知人友人・家族・自分を大切にしよう。

自分の都合だけ考えて行動しているうちは、どれだけ年齢を重ねていようが未熟な人であると考えます。相手は何故そのような状況・状態なのか。表面上には見えてこなくても何かしら困った事情があるのではないか。少しで構わないのでこのような視点を持ってみてください。相手の立場に立って考えられる人・背景には何があるのか本質を捉えて行動を取れる人こそが成熟した人だと思います。知人友人・家族・そして自分を大切にする習慣を身につけていきましょう。

⑦ 自分の頭で考えて行動しよう。

当たり前のことですが、実は難しいことです。何かを考える時には最低限の知識が必要です。知識は多ければ多いほど物事を多角的・複合的に物事を考えることができます。また、その場の状況や条件によってどのように行動するかは変わってきます。そのときに大切になってくるのが過去の事例や先人たちの智慧です。過去の事例を知ることで我々は自身の経験がなくとも追体験することができます。中には批判的に捉える問題もありますが、そのときに意識して欲しいことがあります。それは「相手を貶めることなく、批判と同時に批判以上の改善策と責任を持つこと」です。批判をすることは誰でもできます。しかしそれでは物事は解決しません。当事者意識を持って自分ならどうするか。責任ある立場の人が判断を下した背景には何があるのか。よく考えてみてください。俯瞰して物事を見つめ、自分の頭で考えて行動する習慣を身につけていきましょう。